

「祭司長と民の長老たちによる小羊の吟味(1)」

マタ 21 : 23~32

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスは、メシアとしてエルサレムに入城された。
- ② それは、ニサンの月の10日。紀元30年4月2日。日曜日であった。
- ③ 月曜日に、いちじくの木のかげと、宮清めがあった。
- ④ 火曜日に、いちじくの木が枯れていた。
- ⑤ きょうの出来事は、火曜日に起こったものである。

(2) この箇所を流れているモチーフ

- ① 過越の小羊はイエスの型であり、イエスはその本体である。
- ② ニサンの月の10日~14日まで、小羊はしみや傷がないかどうか吟味を受ける。
 - * 4つのグループの指導者たちがイエスに挑戦する。
- ③ 挑戦の目的は2つある。
 - * 群衆を誘導し、イエスに敵対させること
 - * イエスがローマ法に違反しているという口実を見つけること

(3) ユダヤ人の指導者たちとの議論の特徴

- ① ここに登場するのは、古代世界における典型的な議論の方法である。
- ② 質疑応答、機知に富んだ軽妙な言葉、論敵の言葉の矛盾を突く論理展開など。
(例話) 福音書を読んだヨッシーさんの感想

(4) A. T. ロバートソンの調和表

§ 132 サンヘドリンは、公にイエスの権威に挑戦する。

マコ 11 : 27~12 : 12、マタ 21 : 23~22 : 14、ルカ 20 : 1~19

2. アウトライン

- (1) イエスの権威に対する挑戦 (23~27節)
 - (2) ふたりの息子のたとえ話 (28~32節)
 - (3) ぶどう園の主人と農夫のたとえ話 (33~46節)
 - (4) 婚宴のたとえ話 (22 : 1~14節)
- (今回は、(1) と (2) を取り上げる)

3. 結論：

- (1) キリスト教界における権威について
- (2) 信仰の成長について
- (3) 人生の逆転について

小羊の吟味から、靈的教訓を学ぶ。

I. イエスの権威に対する挑戦(23～27節)

1. 23節

Mat 21:23 それから、イエスが宮に入って、教えておられると、祭司長、民の長老たちが、みもとに来て言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だれが、あなたにその権威を授けたのですか。」

- (1) 最初の挑戦は、祭司長と長老たちから来た。
 - ①祭司長は、サドカイ派である。
 - *彼らはローマの意向を気にしなければならない政治家である。
 - ②長老は、パリサイ派である。
 - *彼らは政治的には無力であるがゆえに、サドカイ派よりも人気があった。
- (2) 彼らがこのように公に挑戦をするのは、不法なことではない。
 - ①彼らは、自分たちのことを真理の守護者と見なしていた。
 - ②権威をもって教える者が現れたなら、その人に挑戦するのは当然のことである。
 - ③しかもイエスは、正式なラビ教育を受けていない。
- (3) 「これらのこと」(マタ 21:8～14の内容)
 - ①勝利の入城
 - ②人々の賞賛を受けたこと
 - ③宮きよめ
 - ④盲人や足のなえた人たちの癒し
 - ⑤神殿で教えていること
- (4) 「何の権威によって」、「だれが、あなたにその権威を授けたのですか」
 - ①これは、イエスを罠にかけるための質問である。
 - ②もし天から権威を受けたと言え、冒とく罪で訴える。
 - ③もし人から権威を受けたと言え、その主張は無効である。
 - *ユダヤ教では、ラビは彼以前のラビたちの教えを引用する。
 - *それがラビの権威の源となる。

*しかしイエスは、ラビたちの教えを引用せず、聖書だけを引用した。

2. 24～25節 a

Mat 21:24 イエスは答えて、こう言われた。「わたしも一言あなたがたに尋ねましょう。もし、あなたがたが答えるなら、わたしも何の権威によって、これらのことをしているかを話しましょう。

Mat 21:25 ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか。天からですか。それとも人からですか。」

(1) イエスの回答は、ラビ的議論の典型的な例である。

- ①質問に対して、質問で答えている。
- ②もし彼らがイエスの質問に答えるなら、イエスも彼らの質問に答える。

(2) 「ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか」

- ①「ヨハネのバプテスマ」とは、ヨハネの奉仕全体のことである。
- ②ヨハネは、なんの権威によって奉仕を続けたのかということである。

(3) 「天からですか。それとも人からですか」

- ①これは、イエスの論敵をジレンマに陥れる質問である。
- ②これまでとは、立場が逆転した。

3. 25b～27節 a

すると、彼らはこう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天から、と言え、それならなぜ、彼を信じなかったか、と言うだろう。

Mat 21:26 しかし、もし、人から、と言え、群衆がこわい。彼らはみな、ヨハネを預言者と認めているのだから。」

Mat 21:27 そこで、彼らはイエスに答えて、「わかりません」と言った。

(1) もし天からの権威と答えれば、ではなぜイエスを信じないかと責められる。

- ①指導者たちは、ヨハネが神から遣わされた預言者であることを認めていた。
- ②ヨハネはイエスを指して、「見よ、神の小羊」と叫んでいた。
- ③つまり、ヨハネとイエスの権威は、同じ源から発しているということである。

(2) もし人からと答えれば、群衆が恐い。

- ①群衆の多くがヨハネの権威を信じていたので、騒ぎ出すだろう。
- ②特に、祭司長たちはローマの目を恐れていたので、「世論」を気にした。

(3) そこで彼らは、「わかりません」と答える第3の道を選んだ。

4. 27節b

イエスもまた彼らにこう言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。

(1) 彼らはすでに知っているのである。

①知っていることを、さらに教える必要はない。

(2) イエスは、彼らを叱責するために3つのたとえ話を語る。

①緊張感が高まって行くことを見逃してはならない。

II. ふたりの息子のたとえ話(28~32節)

1. 28~30節

Mat 21:28 ところで、あなたがたは、どう思いますか。／ある人にふたりの息子がいた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行つて働いてくれ』と言つた。

Mat 21:29 兄は答えて『行きます。お父さん』と言つたが、行かなかつた。

Mat 21:30 それから、弟のところに来て、同じように言つた。ところが、弟は答えて『行きたくありません』と言つたが、あとから悪かつたと思つて出かけて行つた。

(1) 父がふたりの息子に、ぶどう園に行つて働いてくれと言つた。

①父としては、当然のことを言つている。

②父に対する敬意と従順は、ユダヤ的美徳である。

(2) 兄の場合

①すぐに「行く」と言つたが、行かなかつた。

②父への不従順は、悪徳である。

③この場合は、いったんは行くと言つていたのでさらに悪い。

(3) 弟の場合

①行きたくないと言つたのは、よくない。

②しかし、最終的には悔い改めて、出かけて行つた。

2. 31~32節

Mat 21:31 ふたりのうちどちらが、父の願つたとおりにしたのでしょうか。」彼らは言つた。「あとの者です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。取税人や遊女た

ちのほうが、あなたがたより先に神の国に入っているのです。

Mat 21:32 というのは、あなたがたは、ヨハネが義の道を持って来たのに、彼を信じなかった。しかし、取税人や遊女たちは彼を信じたからです。しかもあなたがたは、それを見ながら、あとになって悔いることもせず、彼を信じなかったのです。

(1) イエスは、どちらが父の願った通りにしたかと聞いた。

①修辭的質問や招きの言葉を最後まで取っておくのは、聴衆に強い印象を与えるための古典的手法である。

(2) 指導者たちは、「あとの者です」と答えた。

①この答えによって、彼らは自分自身を裁いたのである。

(3) イエス自身が、このたとえ話の適用を語る。

①宗教的指導者たちと取税人や遊女たちの対比

②これ以上落差のある対比はない。

③祭司長やパリサイ人たちから見ると、取税人や遊女たちは救い難い罪人である。

④その罪人たちの方が、先に神の国に入っているというのである。

⑤宗教的指導者たちにとっては、これ以上の侮辱はない。

(4) 兄とは、宗教的指導者たちのことである。

①ヨハネが義の道(信仰による義)を持ってきたとき、彼らはヨハネを神からの預言者と認めた。

②しかし、それが行為となって現れることはなかった。

(5) 弟とは、取税人や遊女たちのことである。

①彼らは、神のことばからは遠い所にいた。

②しかし、悔い改めてイエスを信じた。

③行動は、真の「神の子」が誰であるかを証明する。

結論：

1. キリスト教界における権威について

(1) 神学校に行かなくても、牧師になれるか。

①答えは、「イエス」である。

②神がご自分の僕を召し、その人に権威を与える。

(2) では、神学校に行く必要はないのか。

① 答えは、「イエス」& 「ノー」である。

② 2テモ2:2

「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい」

* 神の器となるためには、訓練が必要である。

* 使徒たちの教えを継承するのが牧師の使命である。

③ 神学校で学ぶことには、多くの益がある。

* しかし、神学校でなくても、よい学びをする機会はある。

* 要するには、教えの内容が問題なのである。

(3) 牧師の権威の範囲は、どこまでなのか。

① ユダヤ的法律の原則が、きょうの箇所背景にある。

② 派遣された者は、派遣した者と同じ権威を行使できる。

③ その場合は、派遣された者は主人の意図に忠実に行動するという前提がある。

④ ヨハネは、神の御心に基づいて行動した。

⑤ イエスは、100%父の御心に従った。

2. 信仰の成長について

(1) イエスは、指導者たちの質問に答えなかった。

① すでに彼らは答えを知っていた。

② しかし、それを受け入れ、行動に移すことはしなかった。

③ すでに知っていることを、さらに教える必要はないのである。

(2) 神が私たちが扱う方法も、それと同じである。

① すでに知っている真理を実践し始めるまでは、新しい真理を学ぶことはない。

3. 人生の逆転について

(1) 表面的に義の衣をかぶっている者は、神の前における真の悔い改めを知らない。

① 私たちは、儀式や伝統によってクリスチャンになるのではない。

(2) 福音とは、「失敗者へのグッドニュース」である。

(例話) 「オリーブの家」の入室者への励ましのメッセージ

「人生、やり直しがきく」